
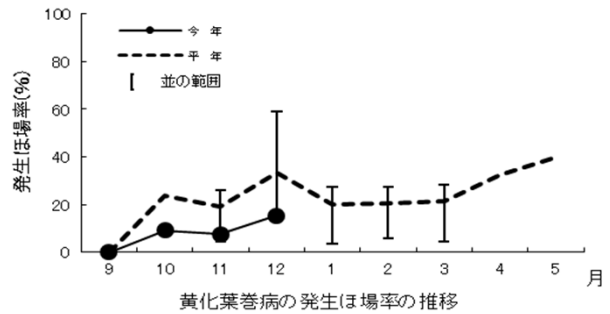
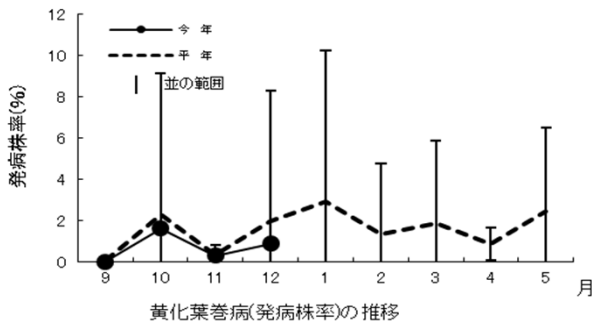


作物	トマト	地域	沖縄群島
病害虫名	① 黄化葉巻病		
12月の発生量（現況）		並	
1月の増減傾向		↗	
増減傾向の根拠		発病株率の平年の発生推移から、12月より発生量は増加すると考えられる。	

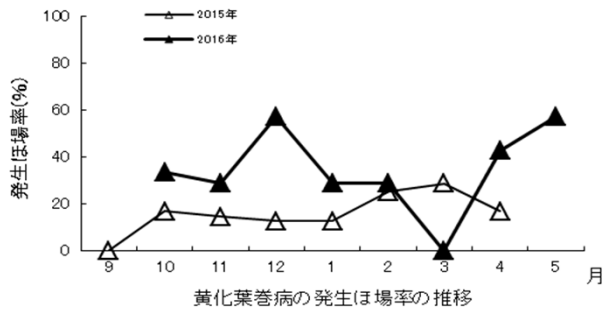
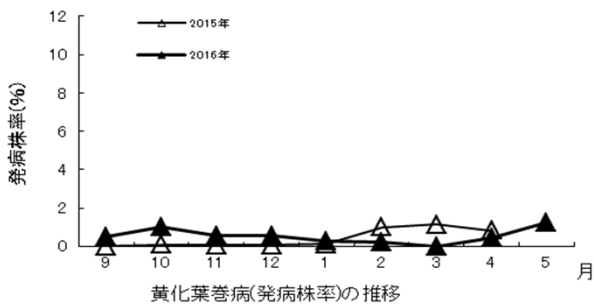
発生量の根拠（調査結果）

- ・ 12月中旬の調査の結果、発病株率は0.9%（前年0.6%、平年2.0%）と平年並で、発生ほ場率は15.4%（前年57.1%、平年33.3%）と平年並であった。

（今年のデータ）




（過去2年のデータ）



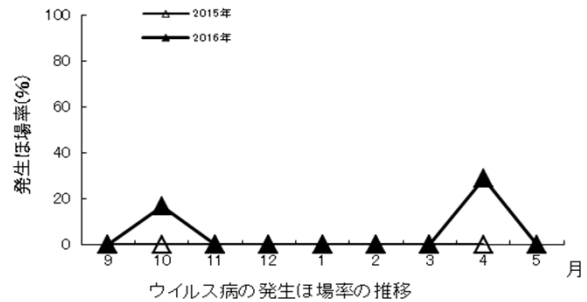
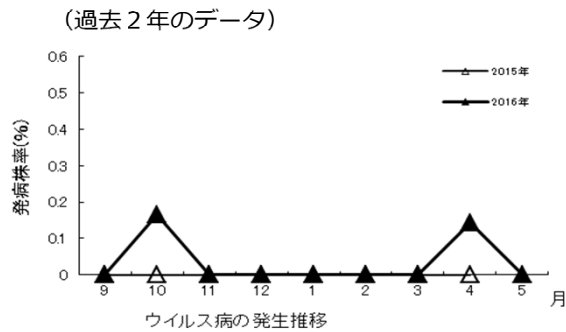
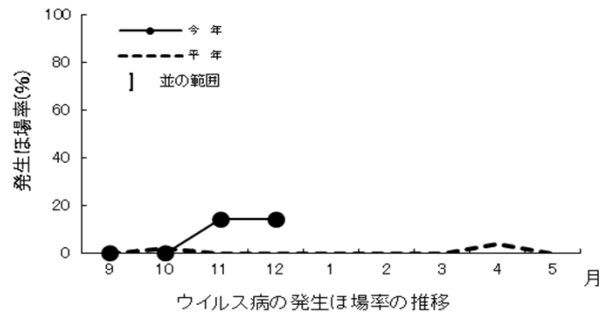
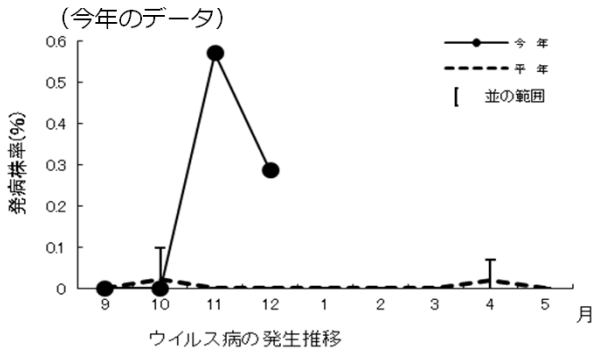
防除のポイント

- ・ 本病はタバココナジラミによって媒介されるウイルス病である。
- ・ 栽培初期に蔓延すると多大な被害となるため、媒介虫の早期発見・早期防除に努める。
- ・ 感染した株は伝染源となるため、疑わしい株も含め早急に抜き取る。
- ・ 感染株及び摘葉残さは、施設外に持ち出し必ずビニール袋に入れて密閉処分する。

作物	トマト	地域	沖縄群島
病害虫名	② ウイルス病(黄化葉巻病以外)		 <p>モザイク病(CMV)</p>
12月の発生量(現況)	多		
1月の増減傾向	→		
増減傾向の根拠	発病株率の平年の発生推移から、12月と同程度の発生量と考えられる。		


発生量の根拠(調査結果)

- ・ 12月中旬の調査の結果、発病株率は0.3%(前年0%、平年0%)と平年より高く、一部施設で確認された。
- ・ 今回確認されたのは、Cucumber mosaic Virus (CMV)によるモザイク病であった。



防除のポイント

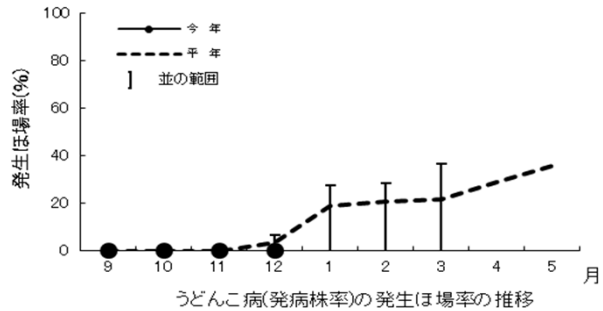
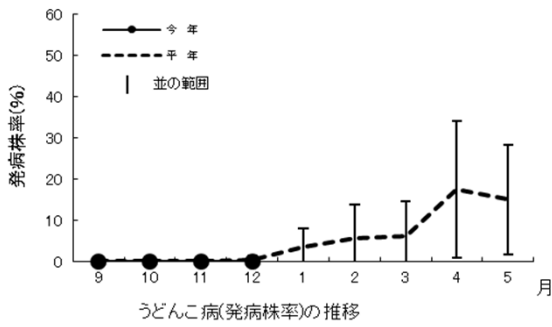
- ・ Cucumber mosaic Virus(CMV)はアブラムシ類によって媒介されるウイルスで、汁液伝染する。
- ・ 発病株は伝染源となるため、早急に抜き取り、施設外に持ち出しビニール袋に入れて密閉処分する。

作物	トマト	地域	沖縄群島
病害虫名	③ うどんこ病		
12月の発生量(現況)	(発生なし)並		
1月の増減傾向	↗		
増減傾向の根拠	発病株率の平年の発生推移及び、今後1か月の降水量が少ない見通しから、12月より発生量は増加すると考えられる。		

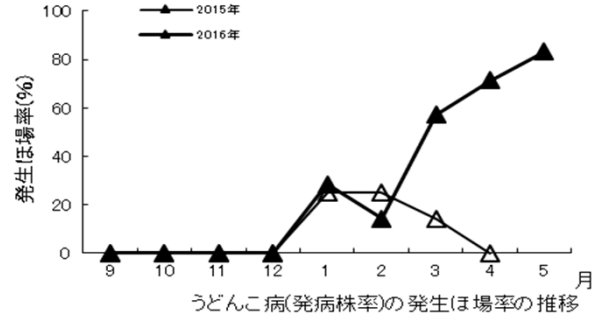
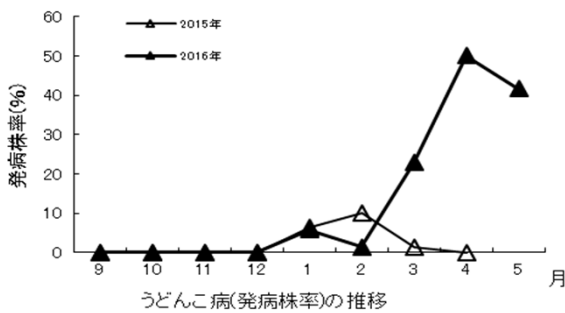
発生量の根拠(調査結果)

- ・ 12月中旬の調査の結果、発病株率は0%(前年0%、平年0.3%)と平年並であった。

(今年のデータ)




(過去2年のデータ)



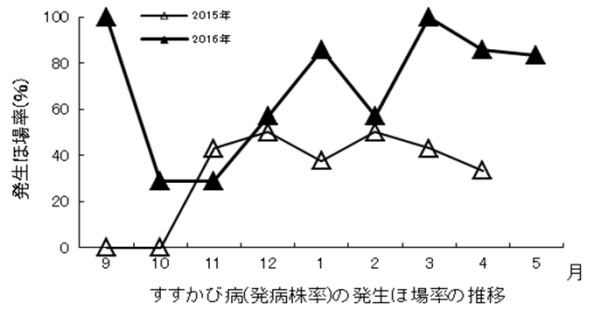
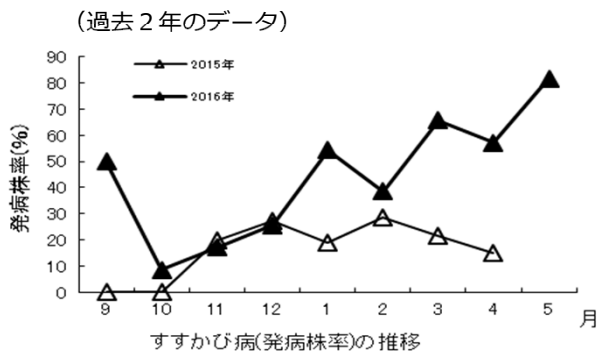
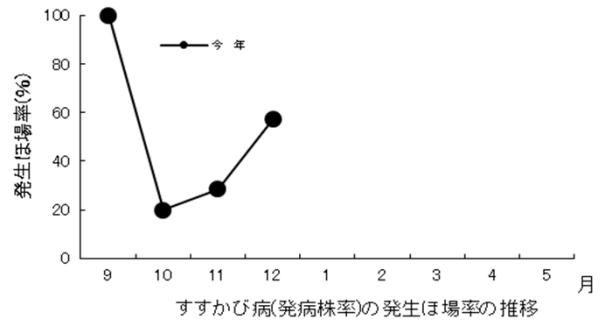
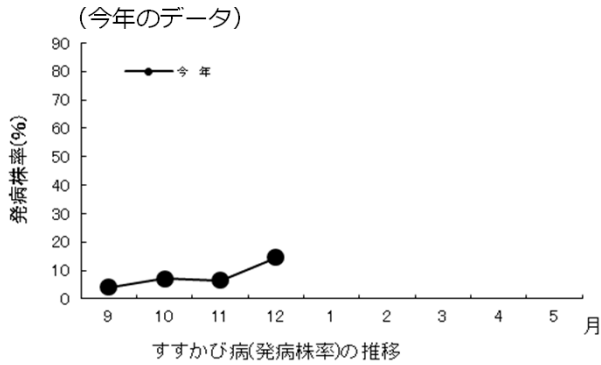
防除のポイント

- ・ 通風が悪いときに多発生しやすいので、老葉や病葉を除去し、透光通風を良くする。
- ・ 多湿条件で発生し、その後乾燥が続くと被害が拡大するため、湿度管理に注意する。
- ・ 今後、発生が増加すると考えられるので防除を徹底する。
- ・ 多発すると防除が困難となるので、葉をよく観察し早期発見・防除に努める。

作物	トマト	地域	沖縄群島
病害虫名	すすかび病		
12月の発生量（現況）	判定不可		
1月の増減傾向	↗		
増減傾向の根拠	発病株率の過去2年の発生推移から、12月より発生量は増加すると考えられる。		


発生量の根拠（調査結果）

- ・ 12月中旬の調査の結果、発病株率は14.6%(前年25.7%)であった。



防除のポイント

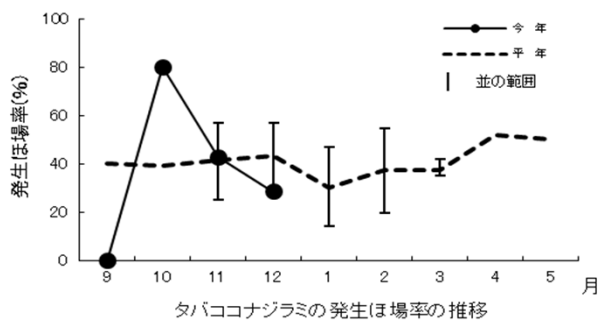
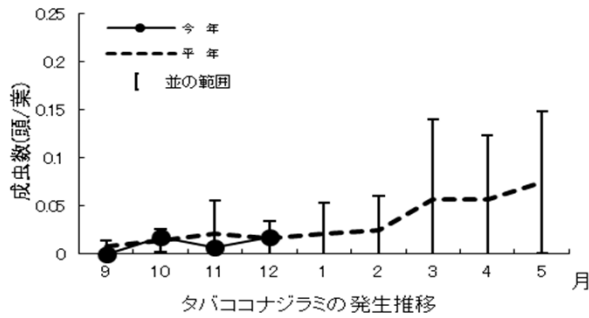
- ・ 多発すると防除が困難になるので、予防散布及び初期防除を徹底し、感染の拡大を防ぐ。
- ・ 多湿条件や密植、過繁茂で発生しやすいため、排水や換気を良くする。
- ・ 発生源となる不要な老葉、下葉は除去し、透光通風をよくする。
- ・ 除去した葉は放置せず、施設外に持ち出し処分する。
- ・ 薬剤耐性を発達させる可能性があるため、同系統薬剤の連用を避ける。

作物	トマト	地域	沖縄群島
病害虫名	④ タバココナジラミ		
12月の発生量(現況)	並		
1月の増減傾向	↗		
増減傾向の根拠	成虫数の平年の発生推移から、12月より発生量は増加すると考えられる。		

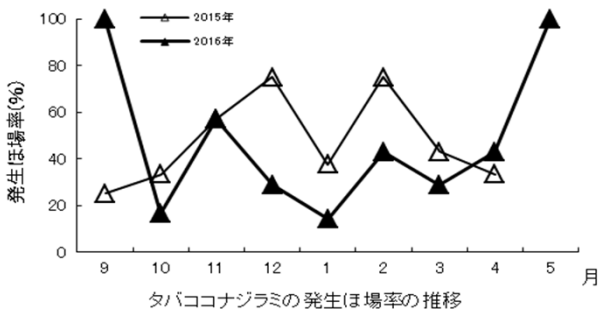
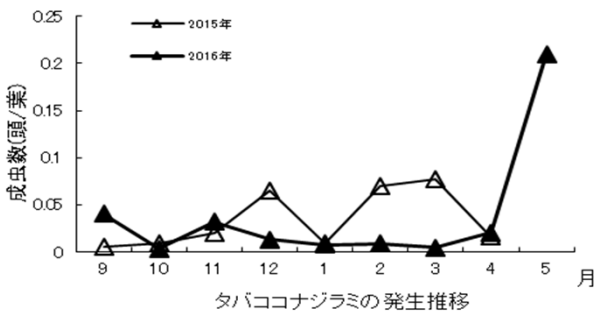
発生量の根拠(調査結果)

- ・ 12月中旬の調査の結果、葉当たり成虫数は0.02頭(前年0.01頭、平年0.02頭)と平年並であった。

(今年のデータ)




(過去2年のデータ)



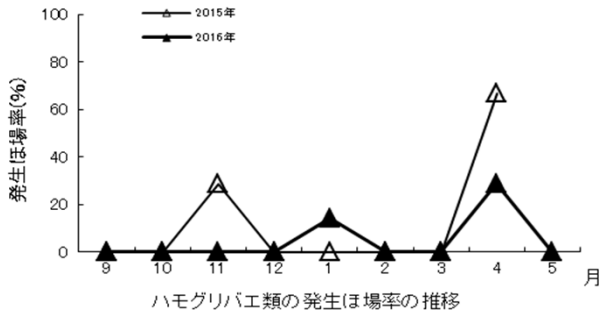
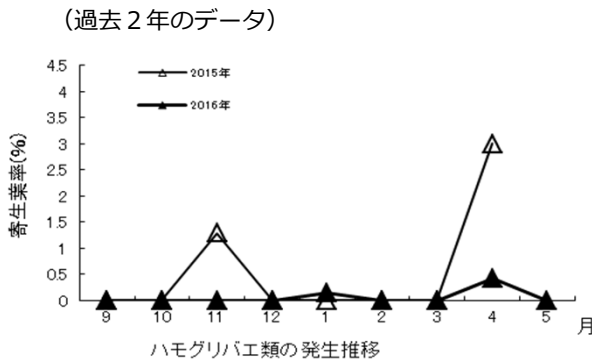
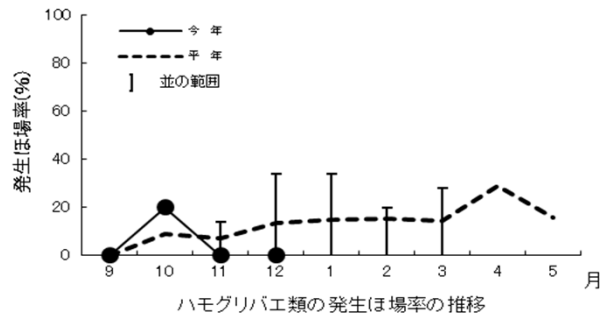
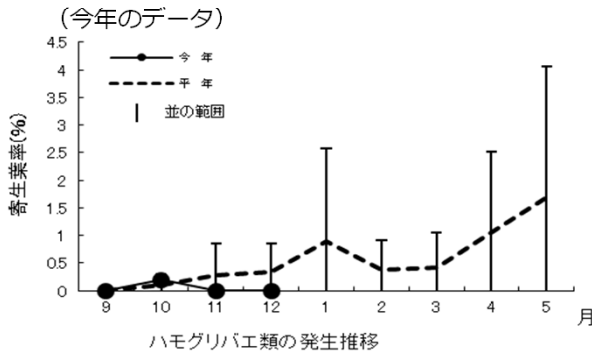
防除のポイント

- ・ 本種はトマト黄化葉巻病を媒介する。
- ・ 多くの雑草が発生源となりうるので、施設内外の雑草除去に努める。
- ・ 施設開口部には目合い0.4mm以下の防虫ネットを展張し、本種の侵入を防止する。
- ・ 黄色粘着テープ等により、早期発見・早期防除に努める。
- ・ 幼虫は下位葉の葉裏に多いことに留意しながら薬剤散布を行う。

作物	トマト	地域	沖縄群島
病害虫名	⑤ ハモグリバエ類		
12月の発生量（現況）	(発生なし)並		
1月の増減傾向	↗		
増減傾向の根拠	発生ほ場率の平年の発生推移から、12月より発生量は増加すると考えられる。		

発生量の根拠（調査結果）

- ・ 12月中旬の調査の結果、寄生葉率は0%(前年0%、平年0.3%)と平年並であった。



防除のポイント

- ・ 摘葉等による残さは成虫の発生源となるので、施設外に持ち出し処分する。
- ・ 本種は多数の在来天敵が存在することから、天敵に影響の少ない選択性殺虫剤を使用する。
- ・ 薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。
- ・ 幼虫期間が比較的短いので、葉の表面に産卵痕や食害痕がみられたら防除を開始する。
- ・ 農薬やその他の防除資材の効果は幼虫の体色で判定する。生存時の幼虫の体色は黄色で、死亡すると黒色に変化する。